

(5) パネルディスカッション「資源効率性を高めた地域循環共生圏の形成」

【コーディネーター】

3R活動推進フォーラム副会長・NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長 崎田裕子氏

【パネリスト】

全国地域婦人団体連絡協議会会長・富山県婦人会会長

岩田繁子氏

富山県消費者協会会長

尾畑納子氏

ハリタ金属株式会社代表取締役社長

張田 真氏

環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室長

富安健一郎氏

富山県生活環境文化部環境政策課長

矢野康彦氏

○崎田氏 今回の「資源効率性を高めた地域循環共生圏の形成」というタイトルを具体的に言いますと、地域がそれぞれの資源の特性に合わせて地域の循環型地域づくりをする時にどのような視点が重要なのか、それを富山の事例からしっかりと学び、これからの循環型地域づくりの大きな一歩にしたいと思います。今日ご登壇いただく方がたは、この富山県の中で先進的にそういう課題に取り組んでおられる皆様で、全国で初めて県レベルで取り組まれたレジ袋の削減、食品ロス削減、そして小型家電リサイクルという、この三つに具体的なポイントを当ててお話をいただき、後半の意見交換の時には、何故うまくいったのか話し合いをしていきたいと思っています。



まず皆様がそれぞれどのように取り組まれたのかという具体的な事例を、お一人ずつお話しただければと思います。富山県婦人会の会長の岩田繁子さん、どうぞよろしくお願ひします。



○岩田氏 富山県婦人会です、どうぞよろしくお願ひします。富山県婦人会は昭和22年7月1日に発足、昨年創立70周年の節目を迎え、新たな一歩を踏み出しました(図1)。本日は環境保全と消費者教育の推進について、いくつか御紹介します(図2)。婦人会の歴史と共に資源回収は地区婦人会の大切な活動として、今も県内一円で続けております。賢い消費者になることを目指し、昭和42年より消費者教育研究大会を開催するなど、消費者教育の充実に努めてきました。昭和から平成と時代が移る頃から、大量消費・大量廃棄の風潮が進む中、ごみ問題が浮上しました。清掃センターでは燃えないごみによって焼却炉が破損することもあり、ごみ減量の実践、ごみ出しマナーの徹底、リサイクル運動に積極的に取り組みました。平成5、6年頃から婦人会のみならず住民全体の問題として自治会や行政にも働きかけ、分別収集の徹底が進みました。平成7年頃から市町村で燃えるごみの指定袋の導入が始まりました。平成9年には富山県婦人会創立50周年を記念し、「くらしを変えよう」をスローガンに、省資源・省エネルギーを訴えるチラシを県内で全戸配布しました。その後も内容を変えて配布を続けております。


平成7年頃から家庭に増え続けるビニール袋に対して「もったいない」との声があちこちから上がり、個人で買い物袋を作り使用する人が出てきました。平成9年には各市町でマイバック持参

富山県婦人会の概要 図1

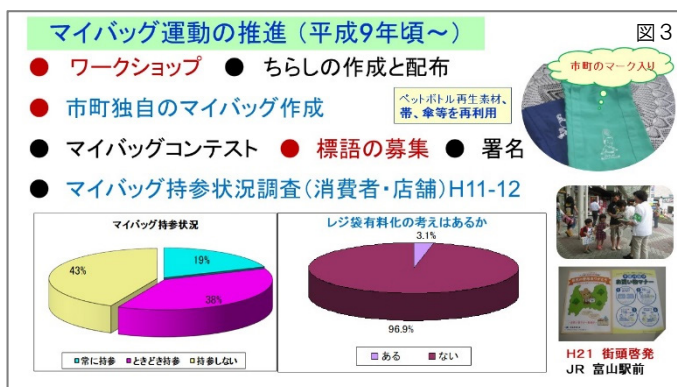
<p>◆ 創立 昭和22年7月1日 平成29年度 創立70周年を迎える</p>  <p>◆ 組織 県内8市町婦人会・個人会員</p>	<p>◆ スローガン 安心安全な地域創造に努めよう 地域に根ざした活動を</p> <p>◆ 活動目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 組織の充実と活動の強化 2 男女共同参画社会の促進 3 家庭教育の振興と青少年健全育成 4 環境保全と消費者教育の推進 5 世界平和の確立
--	---

環境保全と消費者教育の推進 図2

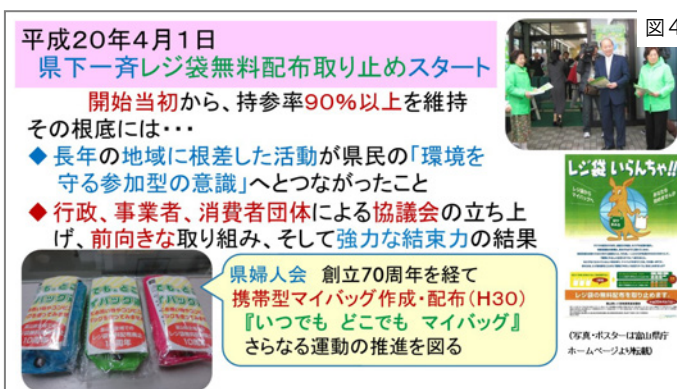
> 資源回収 県内一円で継続
 > 環境美化 花植え 清掃
 > 消費者教育の推進
 消費者教育大会の開催(昭和42年~平成17年)
大量消費・大量廃棄の時代
 ⇒ **ごみの問題浮上**
ごみ減量の実践 ごみ出しマナーの徹底 **リサイクル運動**
 自治会や行政への働きかけ⇒**分別収集の徹底市町村の指定袋**
 >平成9年『くらしを変えよう』チラシ県内全戸配布(創立50周年記念事業)
 >平成10~11年『くらしを変えよう』チラシ配布 **ワークショップ**
 重点項目 ●ごみの減量 ●資源を大切に ●地球温暖化防止
 >平成29~30年『くらしを変えよう』チラシ配布 **食品ロス削減**



運動を進める活動が始まりました。平成 11、12 年には消費者や店舗を対象にマイバック持参状況調査を実施しましたが、時々持参するという人を含めても持参率は 57%程度でした (図 3)。また店舗に対して将来的にレジ袋を有料化する考えがあるかと尋ねましたら、実に 96.9%がないとの回答でした。平成 19 年度に事業者・消費者団体・行政の 3 者でレジ袋削減推進協議会を設立し、1 年間議論を重ね、紆余曲折もありましたが、なんとか前進させたいという私たち利用者の十年來の活動の思いを事業者の皆さんに御理解いただき、大きな英断を頂きました。平成 20 年 4 月 1 日から全国に先駆けて県下一斉にレジ袋無料配布取りやめが実施され、知事を筆頭に各参加団体のメンバーがスーパーマーケットの店頭で啓発チラシの配布を行いました。以来 10 年、開始当初から 90%以上の持参率を維持しています (図 4)。



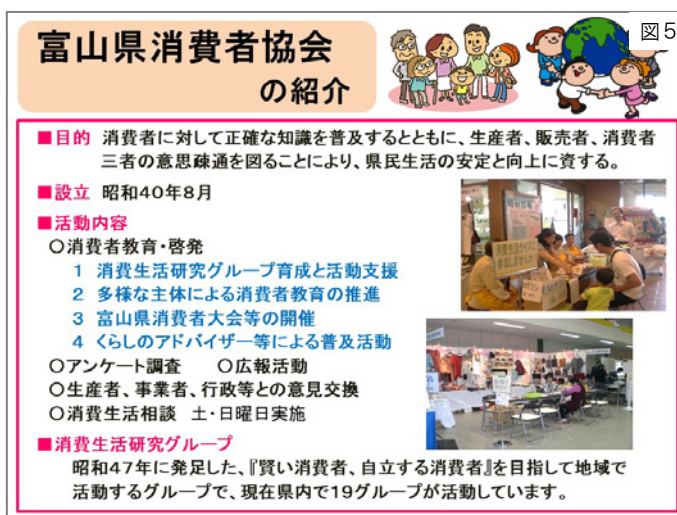
成功の理由としては、長年の地域に根ざした活動が県民の環境を守る参加型への意識につながったこと、行政、事業者、消費者団体が結束し前向きに取り組んだことがあげられると思います。富山県婦人会では、昨年創立 70 周年を迎え、新たな一歩として、常に活動の理念として抱いてきた「くらしを変えよう」を目標に、新しく携帯型マイバッグを作成し、更なる推進に力を注いで行くことを目指しております。



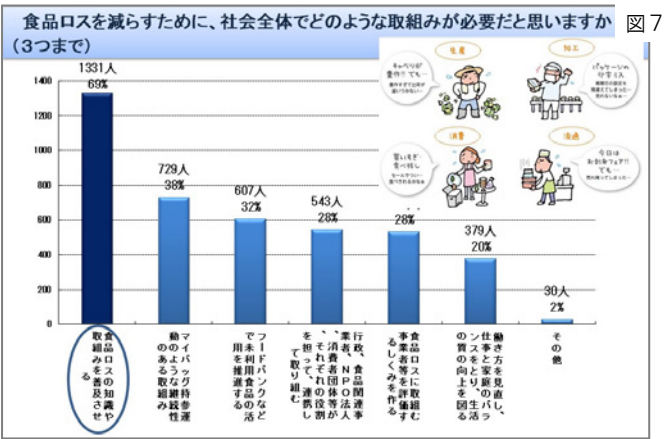
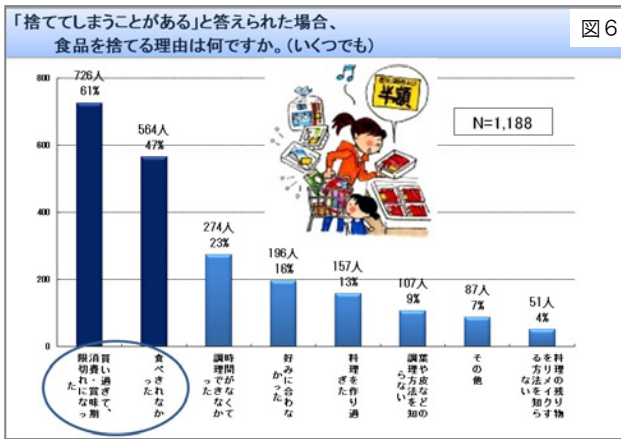
○崎田氏 ありがとうございます。岩田さんの話を伺って、最初平成 11 年頃のアンケートではレジ袋有料化の考えがある店舗は 3%しかいないのですね。そこから 20 年ぐらいかけて活動を広げてきておられるという皆様の活動に頭が下がる思いです。後程その辺のところを伺いたいと思います。

次に尾畑さん、どうぞよろしくお願ひします。尾畑さんは食品ロス削減という取組を消費者協会としてやっておられて、それについてお話をいただきます。

○尾畑氏 富山県消費者協会の尾畑です、どうぞよろしくお願ひします。富山県消費者協会について簡単に御紹介します (図 5)。昭和 40 年、まだ新しいものが出始めたという時代に、正しい知識を吸収し、正しいものの使い方をする、そんな消費者を育てる目的で設立されました。いわゆる不買や消費者運動というスタイルではなく、事業者と消費者がお互いに情報共有するという観点からの活動を中心に行っております。主な活動の内容は、消費者グループの皆様と様々な活動を共にしておりますので、そういったグループの育成や、消費者教育、あるいは消費に関する「暮らしのアドバイザー」の支援などです。また、今日的な消費に関するテーマを取り上げて、年に一度、消費者グループの方と共にアンケート調査を実施しております。その内容を中心に御紹介します。



食品ロスの問題について、富山県に在住する 2,000 人の方々にアンケートをとり、食品ロスに



関する現状について把握をしたグラフです(図6)。いくつかの中から二つだけ本日御紹介しますが、食品廃棄の実態について、捨ててしまうことがありますかという問いに対しては、かなりの方があるという実態でしたが、では何故捨てるのか、一番多いのが買いすぎて消費・賞味期限が切れてしまうという、富山県特有の傾向として、使えるものをそのまま捨ててしまう行動につながっていました。また、食べきれなかったというデータが、多く寄せられておりました。では、どうしたら減らしていくことができるかという問いに対して、食品ロスの知識、あるいは取組を普及させることが重要だと答える人が大変多く、7割近くを占めていました(図7)。

調査結果を踏まえた協会としての取組み 図8

食品ロス削減を進めていくためには、消費者、事業者、行政等がそれぞれの立場から行動し、連携して持続的に取り組むことが重要です。

- 家庭では、家族全体が協力して、冷蔵庫内の確認などにより買い過ぎない、買った食品は「使い切る」工夫、「食べ切る」行動が大切です。
 - ⇒ 消費生活研究グループの研修や、くらしのアドバイザーによる啓発講座の機会などを活用して、普及啓発に努めます。
- 小売店等に対しては、使い切れる量の販売、消費期限等の近い食品を買いやすくする工夫など
- 行政に対しては、正確な知識の普及、幼少期からの食育の推進などを要望してまいります。

出典：平成29年度消費者協会、研究グループ調査報告より

そしてもう一点、富山県が発祥であるマイバッグの持参運動、このような連続性のある取組をもっと推奨したらいいのではないかと、という回答も多くありました。この回答を受け、食品ロス削減を推進するためには、私たち消費者そしてそれを提供する事業者、そして両者をつなぐ行政、それぞれの立場でお互いが情報共有しながら連携して、持続的に取り組んでいくことが重要であると、私たちは結論をつけました(図8)。そして今私たちは、例えば「サルベージ・パーティー」のような残り物をうまく持ち寄って、若い学生や家庭の主婦の方と新たな調理をすることにチャレンジしながら活動を続けていこうと考えているところです。

○崎田氏 ありがとうございます。

次はハリタ金属株式会社の代表取締役社長張田真様にご発表いただければと思います。よろしくお願ひします。

○張田氏 小型家電のリサイクルと共生圏の最適化について、小型家電の意味や成り立ちを説明します。会社は富山石川を中心として、色々なリサイクル機器を備えて事業をしております(図9)。環境基本法の体系からみますと、この赤枠(図10)が当社の担当でして、二輪車リサイクル、船舶、家電リサイクル、建設リサイクル、自動車リサイクル、小型家電リサイクルと、幅広くさせていただいております。当社のリサイクルがどのように行われているかというイメージを少しCMの動画でお見せします(図11)。今見ていただいた機械を使い、小型家電も同じような自動リサイクルプ



企業紹介 図9

会社概要
 法人名称 ハリタ金属株式会社
 設立日 1975年8月(創業 1960年6月)
 本社所在地 〒939-0135 富山県富山郡福岡町本館1053-1
 代表者 代表取締役 張田 真(はりたまご)
 資本金5,000万円
 売上高6.3億円(平成28年6月期決算)
 全工場敷地161,525m² 全工場建屋9,662m²
 従業員数270名

プロセスに入りますが、1時間に20トンぐらいのリサイクルを自動化して行います。20トンの小型家電という、だいたい大きなトレーラーで5-6台ぐらいのイメージを持っていただければと思います。

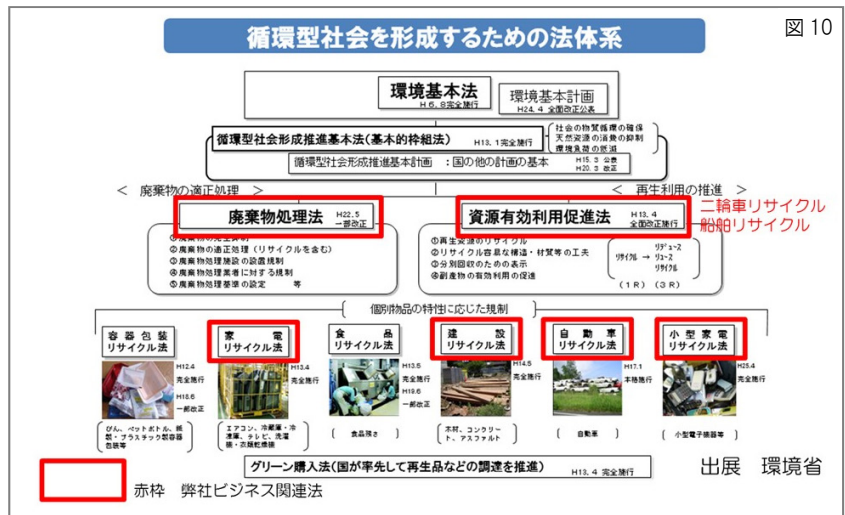
当社は2001年に家電リサイクル法の認定工場になり、電子機器類の関係には御縁があるようです。そして同じ頃、中国の急成長で世界の廃棄品の輸入が開始され、中国主導の不適切なリサイクルは国際的な問題となり、持続はしないと判断しました。そこで、先進国のプライドをかけて、技術開発に逆張りで設備投資に入り、国内処理を目指していきます。金銀レアメタルの回収を確立し、金ではだいたい1トン中100g入っています。金鉱石の約30倍の金濃度を資源として回収できる技術を確立しました。その関係で欧州のリサイクルの定点観測訪問を行っており、欧州型のリサイクルをまねて、富山にもこれをインストールできないか、ということで、今回のイベントのタイトルであるこのテーマそのものに切り込んでいくこととなります。この動きを富山県の環境政策課のスタッフの方がキャッチをされまして、産官によるグランドづくりへ進展していくこととなります。これは小型家電の回収拠点に設置の補助が出たという新聞記事です(図12)。富山型の小型家電リサイクルの誕生です。そのグランドができたところで、民も追加ということで、社会実装へといった流れになりました。そして細田先生が座長されておりました中央環境審議会で私たちの富山モデルを説明し、この流れで法制化に至っていった、というのが流れです(図13)。ありがたいことに、全市町村が現在も参加していただいております、富山県は全国トップクラスの参画率になっております。これが小型家電をリサイクルする者に与えられる国の認定マークで、弊社の大臣認定番号は3番の番号です(図14)。

これから官・民・産の連携による地域共生圏、全体最適化へ動いていながら、今日の副題であります「富山から世界に！みんなでつなぐ3Rの未来」につなげていきたいと思っております。ありがとうございました。

○崎田氏 ありがとうございます。

次に環境省循環型社会推進室室長の富安健一郎様にお話をいただきたいと思っております。富安さんには、循環型社会づくり全体ではなく、今、日本でも世界でも課題になっている海洋プラスチックの問題や、これに環境省がどのように取り組もうとしているのか、お話頂きたいとお願いしました。よろしくお願ひします。

○富安氏 環境省の富安です。今日はよろしくお願ひします。プラスチックをめぐる最近の動きについてお話いたします。最近、プラスチックに関するニュースが多くなっています。新聞だけでなくインターネットのニュースサイトなどでも結構な頻度に関連するニュースが報じられております。こうした機会に、プラ

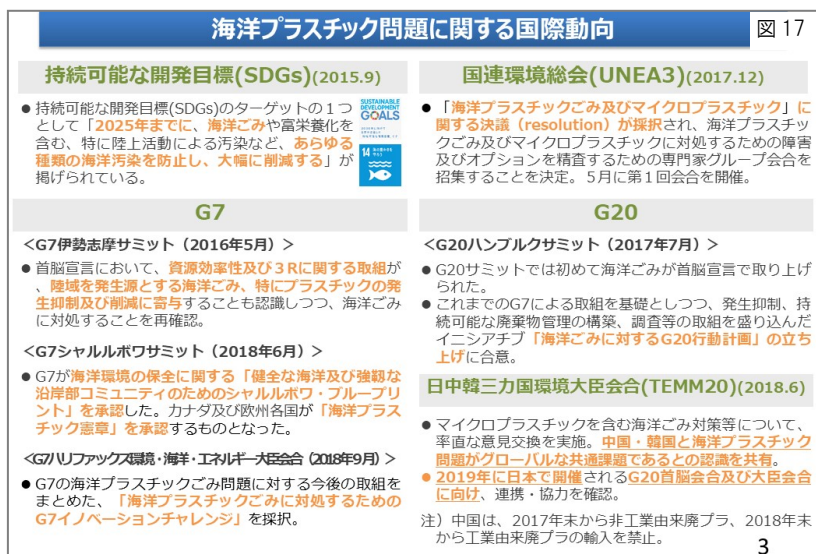
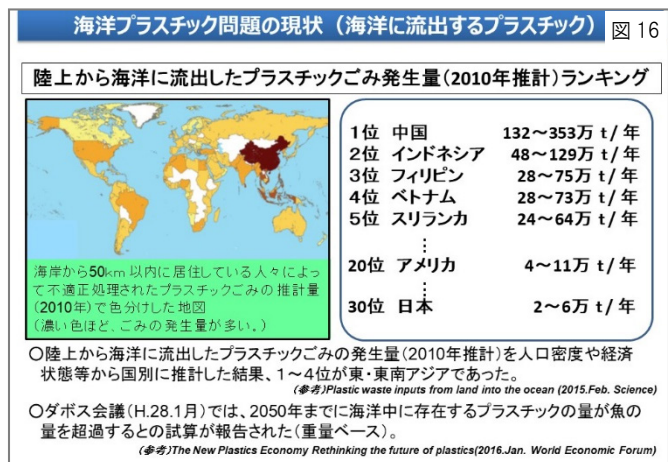


小型家電 大臣認定 第0003号

スティックの3Rについても考えていければと思っています。富山は富山湾がありますので、県民の皆様も海洋プラスチック問題について関心をお持ちだと思います。海岸には漂着ごみが色々流れ着きますが(図15)、漂着物の中にはプラスチック製の物も色々流れてまいります。これらの海洋プラスチックごみについて、生態系を含めた海洋環境への影響など、色々な被害が想定されているところです。また、陸から海に流れ出したプラスチックごみは、紫外線にさらされるなどしてバラバラになり、サイズが5mm以下のマイクロプラスチックになることもあります。マイクロプラスチックは化学物質を吸着し、海洋生物がこれを食べることで食物連鎖に取り込まれ、生態系に影響をおよぼすことも懸念をされています。この海洋プラスチックごみですが、陸から海に流出したプラスチックごみの発生量を、人口密度や経済状態などから国別に集計してみたところ、1位から4位までが東アジア、東南アジアの国と、そういった研究もあるようです(図16)。一方で、漂着ごみというのは、外国から流れてくるものもありますが、国内で発生したものも多くあります。日本では分別回収が広く実践されるなどして、ごみの量自体は着実に減っておりますが、国内で発生したものが海岸に流れつくということもあるようです。



海洋プラスチックごみの削減にむけて、アジア各国との連携や支援も重要ですが、国内の中でも3Rの推進の取組が重要と思っております。国際的な動きをみてみますと(図17)、まずSDGsのターゲットの一つとして、2025年までに海洋ごみなどあらゆる種類の海洋汚染を防止して、大幅に削減するという項目があります。また、G7やG20など首脳級の会議でも、海洋ごみ、海洋プラスチックごみに関することなどが主要な議題の一つとなっております。来年2019年にG20が日本で開催されることになりました。ここでは真に地球規模で、海洋プラスチックを減少させるという観点から、国内対策の加速化に加えて、途上国を巻き込んだ対策、施策を国際社会に打ち出していきたくと考えております(図18)。またそのG20までにプラスチック資源循環戦略を策定する予定で動いております。このプラスチック資源循環戦略は、今年の6月にまとまった第4次循環型社会形成推進基本計画の中で、プラスチックの資源循環を総合的に推進するための戦略をまとめるということになっており、それを基に検討を進めてい



るところです。循環基本計画の中では例えば使い捨て容器包装などのリデュースなど、環境負荷の低減に資するプラスチック使用の削減、こういったところが色々たわわれているところがあります。

現在この検討につきましては、プラスチック資源循環戦略小委員会これは中央環境審議会の循環型社会部会のもとに設置されている小委員会ですが、この会の中で御議論をお願いしているところです(図19)。以上簡単ですがプラスチックをめぐる最近の動きについて簡単に御紹介させていただきました。

○崎田氏 ありがとうございます。後ほど話し合いのところで、今の状況などもう少しお話を伺えればと思います。

それでは最後のパネリストの方になりますけれども、富山県環境政策課の課長の矢野康彦様にお話を伺いたいと思います。富山県の皆様がこれまでどのように3Rの取組を地域の中に根差してこられたか、その辺のお話を頂きたいと今日はお願いしました。どうぞよろしくお願いいたします。

○矢野氏 富山県の環境政策課長をしております、矢野です。よろしくお願いいたします。先程知事から3Rにつきまして網羅的に説明がありましたので、私からは本日会場にお集まりの皆様へ、一緒に取り組んでいただきたいお願いをさせていただければと思っております。

「いつでも、どこでも3R促進事業」(図20)で、「いつでもどこでもマイバッグ運動」というものをやっております、本日会場の皆様にもストラップ付きのマイバッグをお配りしております。会場には男性の方が多くおられますので、男性の方も通勤カバンなどにつけていただいで、例えば帰宅途中のコンビニなどの買い物に是非マイバックを積極的に使っていただければと考えております。

また海外漂着物対策では(図21)、県ではスマホアプリを活用した清掃活動の促進ということで、今日を機会にぜひスマホアプリに、「ピリカ」をダウンロードし実践していただきたいなど。ごみ拾いの写真が簡単に投稿でき、他の利用者の方からありがとうございますと嬉しい反応が返ってくることで、楽しみながら清掃活動を実践できます。今のところ、

今後の方向性 図 18

来年のG20日本開催に向け、国際・国内双方の取組を関係省庁と連携しつつ進めていく。

2019年G20に向けた国際社会への発信

- 真に地球規模で海洋プラスチックを減少させるという観点から、国内対策の加速化に加え、**途上国を巻き込んだ対策・施策を来年のG20に向けて国際社会にも打ち出し**ていく。
- 国際社会をリードするため、我が国としては、**途上国の発生抑制等地球規模での実効性のある対策支援**、**地球規模のモニタリング・研究ネットワークの構築**等を念頭に、国内対策とも連動させつつ**更なる国際連携・協力等の対応策**を来年のG20までにとりまとめる。

プラスチック資源循環戦略の策定

- **海洋プラスチック憲章の内容をカバー**しつつ、第4次循環型社会形成推進基本計画に基づく**プラスチック資源循環戦略**を、来年のG20までに策定。7/13に中央環境審議会に諮問。

海洋漂着物処理推進法基本方針の改定

- 今般の法改正やG7・G20等の動向を踏まえ、**各種国内・国際施策(実態把握、回収処理、発生抑制、国際連携・協力)を一層充実・加速化**する内容を盛り込み、来年のG20までに改定(閣議決定)。同法に基づく海洋漂着物対策推進会議及び海洋漂着物対策専門家会議において検討。

各主体を巻き込んだ対策の推進

- 企業、自治体等、幅広い関係主体の取組を更に促すための**普及・啓発の推進**。
- 海洋・沿岸海域における海洋ごみ(漂流・海底ごみを含む)の回収・処理の一層の推進、流域圏での上下流一体となった発生抑制対策の推進。

プラスチック資源循環戦略小委員会について 図 19

設置の趣旨

第4次循環型社会形成推進基本計画(2018年6月19日閣議決定)において、

- 資源・廃棄物制約、海洋ごみ対策、地球温暖化対策等の幅広い課題に対応しながら、中国等による廃棄物の基輸措置に対応した国内資源循環体制を構築しつつ、持続可能な社会を実現し、次世代に豊かな環境を引き継いでいくため、再生不可能な資源への依存度を減らし、再生可能資源に置き換えるとともに、経済性及び技術的可能性を考慮しつつ、使用された資源を徹底的に回収し、何れも循環利用することを旨として、**プラスチックの資源循環を総合的に推進するための戦略(「プラスチック資源循環戦略」)**を策定し、これに基づく施策を進めていく。
- 具体的には、①使い捨て容器包装等のリデュース等、環境負荷の低減に資するプラスチック使用の削減、②未利用プラスチックをはじめとする使用済プラスチック資源の徹底的かつ効果的・効率的な回収・再生利用、③バイオプラスチックの実用性向上と化石燃料由来プラスチックとの代替促進等を総合的に推進する。

こととされた。

また、2019年6月に我が国で開催予定のG20に向けて、海洋プラスチック問題の解決のため、世界のプラスチック対策をリードしていくことが重要である。このため、中央環境審議会循環型社会部会の下に**プラスチック資源循環戦略小委員会**を置き、必要な検討を行うこととする。

検討スケジュール・事項

- 2018年度中に結論を得るべく、第4次循環型社会形成推進基本計画(2018年6月19日閣議決定)を踏まえ、かつ、「海洋プラスチック憲章」に掲げられた事項や数値目標も含め、プラスチックの資源循環を総合的に推進するための戦略の在り方について検討を行う。
- 2018年8月17日に第1回、9月19日に第2回を開催。



いつでも、どこでも3R促進事業 図 20

背景

- レジ袋無料配布廃止(0円)から10周年
- G7富山環境大臣会合の開催
- 「富山県資源循環フレームワーク」の採択

3R推進全国大会

- これまで取組みが評価
- 富山県の環境施策を全国へ発信
- 3R推進の必要性を呼びかけ

3Rの拡大

- 全国大会を契機に、3R活動の拡大へ
- 県民総参加の活動へ

いつでも、どこでも3R促進事業

消費行動の入口である小売店と連携し、「いつでも」「どこでも」、3Rを実践できる体制づくり

「いつでも、どこでもマイバッグ運動」

- ①マイバッグ所持の定着を回するため、**携帯型マイバッグ**の作成・配布(婦人会と連携)
- ②コンビニエンスストアと連携し、**マイバッグ利用**を呼びかけ

「いつでも、どこでもリサイクル」

家電量販店、リサイクル事業者、市町村の連携により、使用済小型家電のモデル回収を開始

のべ3,000人、約30団体の皆様に登録いただき、これまで約53万個のごみが回収できているということで、頑張っておりますので、皆様も是非御協力よろしくお願いします。

知事も申しあげましたが、これまでの取組につきましては、県民・事業者・行政が連携し、レジ袋の無料廃止等、色々な取組をしてきました(図22)。行政の立場といたしましては、知事を先頭に、皆様と連携をしてこれからも3Rの取組を頑張ってやっていきたいと思っております。

○崎田氏 ありがとうございます。今日のパネリストの皆様が、それぞれの分野で地域活動あるいは3Rの取組を積極的に展開されてこられた実績をもっておられる方ということに感銘を受けます。この後、大きく2つのテーマに関して意見交換をさせていただきたいと思いました。ひとつは、すべての皆様から自ら率先をして動くけれども、それだけではなく色々な方と連携・協働で広めていくという話が出ました。先程の細田会長のお話でも、パートナーシップというのをSDGsの目標17のキーワードとして強調してくださいました。やはりこの連携やパートナーシップ、これを実際にはどのようにやってこられたのか、そこを深堀りさせていただきたいなど。そしてそこから得たものを、皆で全国に持ち帰っていただければありがたいと思います。二つ目は、やはり今大変課題になっている海洋プラスチックの問題、あるいは使い捨て型のプラスチックが大変多いという課題がありますが、そのプラスチックの話を、皆様とさせていただきながら、例えば岩田会長が先ほどお話されたように、レジ袋を無料配布禁止という動きをこれから広めていく時にどこがポイントになるのか、その辺を話し合っていきたいと思っております。パネリストの皆様それぞれご専門が違いますので、逆にそこから色々御提言いただけることに意義があるのではないかと考えております。まず岩田さんと尾畑さんと張田さん、連携・パートナーシップという中で、どういうことをキーポイントに活動されたのか、ぜひお話をいただければありがたいと思います。

<連携する上でのキーポイント>

○岩田氏 私たち富山県婦人会は、活動の中に常に「次世代に生きる子ども達のために」を、活動の原点においてまいりました。平成20年4月1日にレジ袋無料配布取りやめがスタートしましたが、それ以前、長い活動の中には、ペットボトルやアルミ缶の処理施設などを親子で見学したり、大気汚染など環境問題を学ぶ映画の上映会に小学生を招待し、親子で鑑賞して考える機会を設定したりなど、長期にわたり親子ともに学ぶことに努めてきました。また並行して、マイバッグ持参運動などは婦会のみならず他の女性団体と連携して取組み、間断なく推進してまいりました。環境問題は、まず家庭からだと思っております。家庭から出るごみがどのように処理されて、どこに行くのかなど、常に家族で話し合い、認識を高め、家族全員が行動に移すことだと思っております。マイバッグにしても、主婦だけではなく、御主人や子どもも、買い物に行く時はマイバッグを持つということを当たり前にする、ごみを減らすこと、また、不燃



物は綺麗に洗って、分別を家族皆ですること、こういうことを薦めてまいりました。

○崎田氏 ありがとうございます。連携協働というと市民・事業者・行政というイメージがありますが、それだけではなく次の世代の方を巻き込んで一緒にやる、特にお子さんと親御さんが一緒になって取り組んでいただきながら家庭を巻き込むという、そこが非常に大事という話で、環境問題はまず家庭から、やはりこういう自分事化することがすばらしいと思います。尾畑さん、消費者団体の方でも、次世代を巻き込むということは結構やっておられますか。

○尾畑氏 そうですね。今、レジ袋のお話がありましたけれども、婦人会は婦人会として特有の取組がありますし、こうした消費者の人たちで構成される、いくつもの団体が皆で手をつないで連携したということが非常に大きかったと思います。それから、消費者協会の場合ですと、事業者の方との情報共有の機会が大変多く、消費者と事業者、それぞれの立場の考えをお互い出し合いながら、例えばレジ袋有料化の場合でしたら、どうしたら有料化に向けていけるのかという話し合いを、行政の方にも協力していただき何度かしたと記憶しております。それから、幅広い年代を対象としたアンケート調査で、次の行動につなげるときのきっかけや動機を見出していくことが大きいと思っております。

○崎田氏 消費者協会では、食品ロス削減をしっかりと取り組んでくださっていて、これも今大変大事な話題ですが、これも企業の皆様との連携をととても熱心にやっておられるという。そういうところもすごく大事だということですね。ありがとうございました。それでは、ハリタ金属さん、企業の皆様がその技術力をもって、こういう色々な問題に連携していくというのは大変大事だと思いますが、今のこういう循環型地域づくりに向けた連携という話で、どのように普段お感じになっているのか、教えていただければありがたいです。



○張田氏 今日の細田先生のパートナーシップを深めていくという話と、この内容が一本で繋がってきているのですが、簡単にいうと何か違う立場の者がつながる力が、これから非常に大切になってくるのではないかと考えております。小型家電も、富山県の行政が社会問題に関して耳をひらいてしっかり聞いていただけるとい文化があるからこそ、進んだわけではありますが、その小型家電のプロセスについて、もう一つ事例を述べさせていただきますと、私たちはこれから予測される社会問題を先取りしてそれを待ち伏せする立場です。小型家電の仕組みがベースとして整いましたが、これからIoT社会がもっと進んでいくと、電池が普及した社会に急速になっていくわけですが、利便性の裏側に、電池をどうやって安全に処理していくかという社会問題もこれから増えていきます。その未来を先取りして問題提起をさせていただいたところ、今度は小型家電・電子機器類の先取りした問題を解決するために、富山県の広域消防防災センターの御協力をいただき、実は一昨日、リチウムイオン電池の燃焼におけるプロセスというものを解析するために、燃焼試験を行いました。これを解析していきながら、未来の問題に対して、防火、消火の自動システムの開発に乗り出していきます。小型家電をきっかけとなったこの土地から、もうひとつバージョンアップさせて、官民でしっかりとしたグラウンドを作り、そこに消費者の方にしっかり入ってきてもらうことをイメージしております、こういうことを繰り返していけば、沢山のことが地域で完結できる形ができるのではないかと考えております。

○崎田氏 企業の皆様として今後の社会問題を先取りして研究をし、色々技術開発をするという、大変大事なところだと思いますが、例えばその過程で、どういうことがあれば色々なところでそういうことがおこるのか、連携というテーマからいくと、先程は消防の専門の方と連携をしたと、そういう、どこと連携をする新しいことができるみたいなことは、どうやって皆様情報を知っていくのでしょうか。

○張田氏 何を問題と設定するかで決まりますので、その問題にした設定に対して関係を深めていく、異物であるAとBが挟まって、イノベーションということなのでしょうけれども、まず、問題を両方で共通化できれば、課題を半分クリアしたに近くて、先ほども述べましたとおり、非常に富山県政を中心とした、色々聞いていただける文化といったのも非常に大きいと思っております。

○崎田氏 ありがとうございます。事業者の皆様も積極的な課題解決、そしてそれに向かった新しい仕組み

づくりを、常に考えながら県なり他の事業者と連携をするという取組をされていることがよくわかりました。今、お三方から連携というテーマでお話をさせていただきましたが、事業者の技術力に対するお気持ちと、消費者が自分事化していく、やはり地域の中で、すべての皆様が盛り上げていくというのが大変重要なところだと思います。

<プラスチック問題について>

○崎田氏 このことを踏まえながら、次のテーマに行きたいのですが、例えばレジ袋の無料配布の中止等、全国で行政と地域のスーパーといった小売店がきちんと協定を結んでいるところは、増えているようで実は4割くらいしかまだありません。そういったことを、きちんと信頼関係を作っていきながらやっていく、それは消費者とか事業者、皆で信頼関係を作っていくというのが大変重要なところで、それには一体どんなところが大事なのか、まず環境省の富安さんの方から、もう少し海洋プラスチックや、プラスチック戦略に関する、例えば、環境省もレジ袋無料配布を中止するようなことを検討しているのではないかという新聞記事を私も読んだことがあります。実際の話し合いの中で、今、どのようにお考えなのか、あるいは環境省はどう考えているのか、教えていただければありがたいと思います。

○富安氏 レジ袋の話は最近新聞にも出ておりません。環境省としては、新しく就任された原田環境大臣が、会見の中でも海洋プラスチックごみ問題対策として、使い捨てプラスチックの無駄な使用を削減していくことは重要ではないか、と発言しております。その上で特にレジ袋について、有料化を義務づける



ということも検討すべきではないか、といったことも発言されているところです。ただ、レジ袋の話などを含めまして、現在のところでは、中央環境審議会のプラスチック資源循環戦略小委員会の方で、具体的な内容を産業界、自治体、NGOなどの関係者が集う場で御議論をいただいているところで、まずはそこでの御議論の結果を踏まえて、環境省としても対応を考えていきたいと考えているところです。

○崎田氏 わかりました。ということは、今レジ袋有料化なども選択肢として検討課題にはなりうるけれども、まだ検討中、という理解でよろしいですか。

○富安氏 そこも含めて、プラスチック資源循環戦略小委員会の方で御検討をまずはいただくことと思っております。

○崎田氏 わかりました。ありがとうございます。実は私自身、プラスチック資源循環戦略小委員会の委員として入らせていただいております。委員会では、使い捨て型のプラスチックの発生抑制だけではなく、使ったものをしっかり資源回収するにはどうしたらいいのか、回収したものをちゃんと資源として使うにはどうしたらいいのか、そういう全体について話し合いをしております。そういう中で、ここ20年近く社会で問題にしてきた使い捨て型のものを、例えば毎回レジ袋をいただしてお買い物をするとか、そういうことからそろそろ卒業して、欲しい方は有料でいただくとか、そういうことも検討課題にしていいのではないかと思います。発生抑制のところから回収、資源化など全体を考える戦略のところですので、そういう中でしっかりと意見交換ができればと思います。今話し合いの真っ最中ですので、ぜひ皆様も関心もっていただければありがたいと思います。岩田さん、すでに10年前からレジ袋の無料配布中止を決めて推進してきた地域としては、なぜ富山県でそれができたのか、ここがカギではないかということをお話いただければありがたいと思うのですが。

○岩田氏 私たち婦人会は70年という長い歴史があるわけですが、先輩の大きな足跡をたどり、懸命に活動を積み重ねてまいりました。マイバッグ持参運動は、主婦の感覚で家庭に沢山のレジ袋がたまるのが「もったいない」という、その一言からこの活動が始まったわけでございます。「レジ袋無料配布取り止め」に至るまでの10年間は、地球温暖化が叫ばれ私たちの活動も環境問題を大きな柱として学習を進めました。しかしマイバッグ持参率は進みませんでした。でも「レジ袋削減」をしななければならないとの気持ちは変わらず、

行政にお願いし、「レジ袋削減協議会」を立ち上げていただき、1年間、事業者・消費者・行政の3者で話し合いを進めました。事業者の皆様の中には反対の意見もあり、もう駄目かと思ったときもありましたが、「この10年間の活動あっての今日の協議会の設置である」と申し上げ事業者の英断をいただいたわけです。何事もお互いによく話し合ったことが成功につながったわけです。

○崎田氏 ありがとうございます。自分たちのライフスタイルを変えるので無料配布中止という政策をうってほしいと、市民側からちゃんと声を出したという、それが大事なところと本当に思います。私も販売店の方に伺うと、自分のところでは有料化すると、じゃあ他のお店に行くから、ここサービス悪いよね、と、一言そういうことを言われちゃったらもうできないんですよ、と言われます。ですから市民自身がそういう形をとっていくのが大事だと思うのですが、消費者協会の尾畑さん、さきほどもやはり消費者団体として企業の方ときちんと対話し連携しながら、それが活動の基本だという話をされて、食品ロスのこともお話いただきましたが、レジ袋の削減など、こういう問題に関して、やはりそういうところが一番大事だということでしょうか。

○尾畑氏 今私たちが取り組もうとしているのは、食品ロス削減とか、いわゆるエシカル消費にむけた取組ですが、その背景にはレジ袋の時の取組が大きくて、当時、事業者の中にも、時代的に循環型社会を作っていこうと考えているお店があったわけですね。そういうリーダーになっていただけるような事業者を少しずつ増やしながら、そして最後は行政の方を巻き込んで、とやまエコ・ストア制度を作ったり、協議会を作ったりとシステム化していったところが大きいと思っております。



○崎田氏 ありがとうございます。だんだんこの地域の様子が見えてまいりました。県の矢野さんに伺いたいのですが、こういう消費者や生活者の皆様からしっかりと関心をもってもらったり、こういう動きはすばらしいと思うのですが、なぜこの富山県ではこういう運動ができたのか、県としてどういう考えか、そのへんのポイントを一言いただければありがたいのですが。

○矢野氏 これは個人的な思いですが、このようなことができたのは、なんといっても県民性なのかなと考えております。県民の多くの方は、例えばこのレジ袋のように、ある一定のルールや決まりを一度決めたらそれをしっかり守ろうとか、それが環境のために繋がるならひと肌脱ごうなど、そういう思いがこういった行動に繋がっているのではないかと考えております。また、それが消費者団体の方々、事業者、行政の連携に加えて、産官学との連携ともいいましょうか、県内の教育界の大学や、高校、中学、小学校といったところとも連携しています。そういった面でも、富山県民の皆様は、一致団結してやっつけよう、こういう行動に繋がっているのではないかと考えています。

○崎田氏 ありがとうございます。今、ルールを決めたらやるという県民性があるのではないかと、とても素晴らしいのですが、では全国の地域で、ルールを決めたらやるというふうにしていくにはどうしたらいいのか、どなたか何かヒントをいただければと思うのですが。

○岩田氏 私たちの活動は本当にささやかですが、ひとりひとりが行動をすることによって、多くの人々がその意識や生活習慣を変えることができると思います。それがまた社会を変える力になったと自負しております。富山県が先駆けてやりましたけれど、これを全国に広めることができれば願っています。10年たって14億枚のレジ袋削減と発表されました。誇りと喜びを感じております。ぜひ全国の方々にもこの活動を御理解いただき取り組んでいただければと思います。

○崎田氏 ありがとうございます。ひとりひとりが暮らしの中から取組み、暮らしを変えていく、それが社会を変えていくことにつながる。やはり多くの県民のかた、ひとりひとりに、これが大事だという情報をきちんと届けるという、そこがすごく大事なかなと思います。岩田さん、尾畑さんのお話を伺って、両団体とも、アンケートなどをもって、県民の方が今こういう考え方だけれども、課題としては、そこを変えていくのが大事ではないかとか、状況を定量的にしっかりと数字で把握し、課題を明確にしておられると思う

のですが、そういうことは習慣的に活動の中で根付いておられるのでしょうか。

○尾畑氏 アンケートは、色々実態を知るだけではなく、今こういう話題が、例えばエシカル商品についてどれくらい知っていますかとか、SDGsについて少しでも広めたいということ、そういう知識を少し理解していただくという意味もあって、アンケートをとります。ありがたいことに2,000件くらい配布できますので、そこから知らない人もちょっとは知る。それから意識や行動の実態を知る。この二つの面をアンケートから得ることができ、それが次の行動に繋がっていくと思っております。

○崎田氏 アンケートをとることで、伝えることにもなるし、そこから状況を知ることにもなると。ありがとうございます。では例えばレジ袋など使い捨て型のものを安易に使ってしまいがちなライフスタイルを直していく、そういうきっかけにするにはどうしたらいいか、ハリタさん、プラスチックの話に特化していま



すけれども、何かコメントあればぜひお願いします。

○張田氏 先程県民性というお話から、富山県だけで行われても日本の財産にならないという話がありましたけれども、国民性という視点からみますと、日本人は0から1を作るのはすごく苦手で、かつ、前例がないということに対してトライしていく意欲が

少し低いように感じられる国民性と思えます。その中で、一番日本の国民の弱いところは、みんなやっているよ、と言われるとなぜかやらなくてはいけないみたいな衝動にかられてすぐ行動を起こすところもあるようですが、そうするとやはり、そこに風穴をあけて、既成の事実をひとつひとつ作っていくことが社会全体を動かしていくための大事な要素と思えます。色々な素地が整っている富山県から、ひとつでも未来の課題に対して穴をあけて前例を作り大きく展開していくことが必要ではないかなと思っております。先程環境省の富安室長から海洋プラに関して国際問題の問題提言がありましたが、カメにストローが刺さっている衝撃的な映像が世界をかけめぐって、世界の人たちのマインドチェンジが起りかけているという、そんなところに私たちが生きているわけですが、これはまさに災害ではなくて人災による環境問題を解決していくということは、やはり地域でかなり知恵を絞ってやっていかなくてはいけない時代に入ってくると思えます。富山型が社会問題の解決力といったもののプロセスをしっかり持っているということにすれば、プラスチック問題におきましても、今日は3Rですから、リデュース・リユース・リサイクルの順番にいくとリサイクルの点でちょっと触れさせていただきますが、富山県には富山環境整備というプラスチックのプロフェッショナルのリサイクラーが構えております。そこにまた、富山湾、また問題を解決するプラスチックのリサイクルシステムみたいなものを確立して、富山県が先行したならば近県へエリア展開していくといったようなことが理想だと思います。その素地を拓げて、技術開発と社会システムを回転させていくことで、そのシステムをこれから必要になるアジアとか後進国に輸出していけば、非常にいい絵が描けるのではないかと思います。

○崎田氏 身近なところからしっかり考えながら、技術開発と社会システムをきちんと作って、それを日本からそしてアジアとかそういうところに広げていこうと、ありがとうございます。富安さん、この今の3Rを連携して拓げるということに関して、環境省でこれからどういうところをポイントにしていきたいか、お話いただければありがたいと思えます。

○富安氏 今日他のパネリストの方々からお話を伺いまして、連携が大事だということで色々取組を進められている話を聞かせていただきました。その一方で、個人のレベルでも認識をして行動を変えていくと。細田先生や崎田先生のお話でもSDGsの絡みで使う責任という話もありましたけれども、使う側の意識を、ひとりひとりのレベルでも変えていくということも連携とともに、一緒にひろめていかなければならないのではないかと改めて認識しました。今回の推進大会などに御参加いただくのも、そういった意識を拓げていくきっかけになると思っておりますので、引き続きそういったところを取り組んでいければと思っております。

○崎田氏 どうもありがとうございます。富山県さんも、今回このように仕掛けていただいております。今までお話をされた中で、これから富山県から世界にひろげたいという、他に言い残したことがあればぜひお話をいただければと思いますけれども。

○矢野氏 繰り返しになりますが、今日お集まりの関係団体や県民の皆様、行政が一体となって、今日の日を機会に、さらに一層3Rの推進に向けて、しっかりと頑張っていきたいと思いを新たにしております。皆様、よろしくお祈りいたします。

○崎田氏 ありがとうございます。今日のパネルディスカッションで、作る責任、使う責任、やはり物を作る側売る側、そして使う消費者皆が自分たちの役割を考えながらしっかりと取り組んでいくことが連携や信頼関係づくりのすべての基本であるということをご共有したいと思います。そのために、アンケートや調査で課題を明確にし、課題を定量化してきちんと皆に共有するとか、事業者の新しい技術開発をしっかりと伝えるとか、そういう定量化、技術開発の情報、それをしっかりと共有していく、そこがすべての基本に徹底されていると思います。全国各地で、地域の中で3Rの解決したい課題はまだまだ沢山あると思います。こういうことを、情報をしっかりと蓄積し、市民団体や企業の皆様の取組などの情報を共有し、そしてそれを皆で話し合えるような場をしっかりと提供する、そして話し合いながら新しいシステムを作っていくという、そういうことを行政の皆様もしっかりと考えて取り組んでいただく、そういうことで地域の中に新しい3Rの仕組みが根付いていくのではないかと、今日は富山県の皆様とお話して実感しました。今日、こちらに全国からお越しの方もかなりいらっしゃると思いますので、ぜひ全国各地に伝えていただきたいと思いますし、富山県の皆様も、そういうポイントを明確にしながら地域循環共生圏づくりに関して発信していただければ大変ありがたいなと思います。(観客席の) 細田会長、なにか一言よろしいですか。

○細田氏 先程県民性とおっしゃっていましたが、それだけではなく、個々の色々な方々の努力が繋がってきているということだと思います。小型家電リサイクルで申し上げましたが、あの時、法律ができる前に、当時の環境省のリサイクル推進室長と経済産業省のリサイクル推進課長の二人を富山に連れてきて、ハリタ金属に行ったわけですが、そこにちゃんと県の人に来ていて、フォローするような仕組みができていたということです。ぜひ私は富山のモデルを学んで、全国に伝えたいと思います。どうもありがとうございました。

○崎田氏 突然会長をひっぱり出しました。どうもありがとうございます。今の話にもあったように、県、企業、消費者団体、研究者、専門家、多くの方が力を合わせようという、そういう形が根付いておられるということを本当に痛感いたしました。これからもぜひ活動をし、発信をしていただければありがたいと思います。どうもありがとうございました。



(6) 次回開催地挨拶

新潟市環境部廃棄物政策課長 鈴木稔直氏

御紹介いただきました、新潟市廃棄物政策課長の鈴木でございます。まずもって富山大会の成功、大変おめでとうございます。そして来年度、新潟市を開催地に選定いただきまして誠にありがとうございます。新潟市も低炭素、循環型社会の形成に向けて、3Rにも様々取り組んでおります。政令市のリサイクル率では現在2位といったところもありまして、この大会が来年度、新潟市で開催されるのは大変有意義でありますし、新潟市からまた様々に情報発信できればと考えております。



来年の1月1日、新潟市は港がひらきまして開港150周年を迎えます。現在、様々な観光誘客に取り組んでおり、この大会が開かれます10月には、ちょうどJRのデスティネーションキャンペーンが開かれまして、そのテーマが食文化であります。新潟市のおいしい料理、そして地酒を、大変楽しめると思いますので、ぜひ一泊、宿泊つきでお越しいただければと思います。

結びになりますが、この富山大会同様、来年新潟市に大勢の皆様がお越しいただくことを祈念しまして、次回開催地の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

4. 3R推進展示コーナー

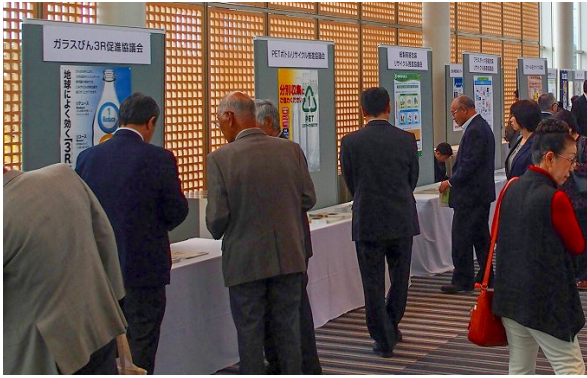
メインホール入口に続く3階ホワイトエには、3R推進展示コーナーが設けられ、33団体が出展したほか、3R促進ポスターコンクール入賞作品の展示パネル、メダルプロジェクト回収BOXが設置されました。開会前には、あきもと司環境副大臣らが展示コーナーを訪れ、ブース担当者の説明を熱心に聞いていました。

【出展者】(順不同)

○環境省○環境省中部地方環境事務所○富山県環境政策課○富山県環境保全課○3R活動推進フォーラム○リデュース・リユース・リサイクル推進協議会○段ボールリサイクル協議会○飲料用紙容器リサイクル協議会○アルミ缶リサイクル協会○スチール缶リサイクル協会○プラスチック容器包装リサイクル推進協議会○紙製容器包装リサイクル推進協議会○PETボトルリサイクル推進協議会○ガラスびん3R促進協議会○3R推進団体連絡会○NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット○公益社団法人食品容器環境美化協会○とやまエコ・ストア連絡協議会○北東アジア地域環境ポスター展○富山県食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議○公益財団法人とやま環境財団○公益財団法人環日本海環境協力センター○公益社団法人富山県浄化槽協会○一般社団法人全国浄化槽団体連合会○NOWPAP(北西太平洋地域海行動計画)○富山県婦人会○富山県消費者協会○富山市○富山市エコタウン交流推進センター○射水市○福井県○石川県○長野県

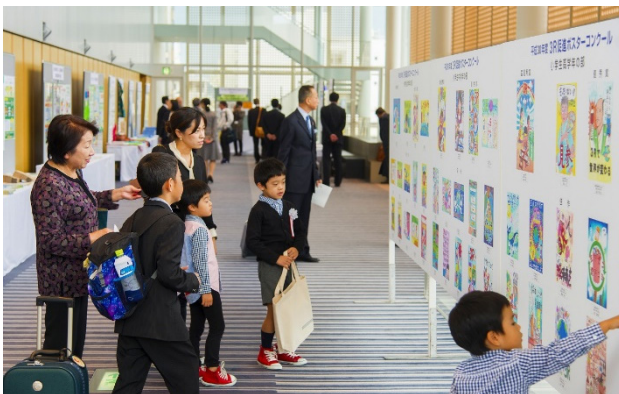
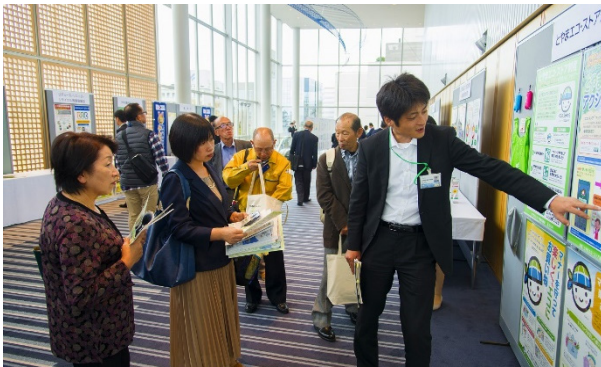


展示コーナーを視察するあきもと副大臣、崎田3R活動推進フォーラム副会長



◀メダルプロジェクト回収ボックスも設置されました。

▲▼展示コーナーには、主催者をはじめ、自治体、関連団体等多数出展されました。



◀3R推進ポスターコンクール展示パネル



5. 名刺交換会

記念シンポジウム終了後、3階ホワイトの3R推進展示コーナーで、主催関係者や講師・パネリストと大会参加者による名刺交換会が行われました。出席者は、用意された地元富山県の名水「立山の天然水」「秘境黒部」や「しろえび紀行」「薄氷」などのお菓子を味わいながら、歓談に花を咲かせていました。



◀リユースカップを利用しました。

6. 関連行事

(1) 施設見学会

本大会の関連イベントとして、富山県と3R活動推進フォーラムが主催する施設見学会が10月12日(金)午前中に行われました。見学先の富山市エコタウンは、県内でも大規模な廃棄物・リサイクル関連の産業団地であり、様々な高度分別・処理を行っている企業が集積しています。9時に富山駅に集合、バスで移動し、富山市エコタウン交流推進センターで説明を受けた後、エコタウン産業団地内にある日本オートリサイクル株式会社(自動車リサイクル施設)と富山グリーンフードリサイクル株式会社(生ごみ及び剪定枝のリサイクル施設)の2社を巡り、話を伺いながらそれぞれ作業の流れを見学しました。参加者は45名でした。



エコタウン交流推進センター展示室



日本オートリサイクル(株)

(2) とやま環境フェア2018

10月13日(土)・14日(日)には、富山県高岡市の高岡テクノドームにて、「とやま環境フェア2018」(主催:富山県、高岡市、環境とやま県民会議、(公財)とやま環境財団)が開催されました。

同展は1998年から続く日本海側有数の環境に関する展示会であり、今年は3R推進全国大会に合わせて「未来へつなごう!エコなくらし(いつでも、どこでも3R)」をテーマに開催。65団体が出展し、両日あわせて約15,000人の方が来場しました。環境省中部地方環境事務所、3R活動推進フォーラムもブース出展しました。



会場の模様



出展ブースには子ども達も沢山訪れました。

7. 資料

(1) 第13回3R推進全国大会開催案内（参加申込書）

10月は3R推進月間です。 「富山から世界に！みんなてつなく3Rの未来」

第13回 in 富山 平成30年 10/12(金) 13:00~17:00 (受付開始 12:00)

会場 富山国際会議場 大手町フォーラム 入場無料 定員500名

お申し込みは大会実行委員会事務局へ。

第1部 13:00▶14:05 式典 ■循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰 ■3R促進ポスターコンクール最優秀表彰

第2部 14:15▶16:55 記念シンポジウム

■基調講演1 「富山県における3Rの取組み」 富山県知事 石井 隆一 氏

■事例発表1 3Rに取り組む富山県内の団体・事業者

■事例発表2 沖縄県環境部環境整備課長 松田 了 氏

■基調講演2 「SDGs時代の改正循環計画と3Rの推進」 慶應義塾大学経済学部教授・3R活動推進フォーラム会長 細田 衛士 氏

パネリスト 石井 隆一 氏 細田 衛士 氏

パネルディスカッション ～資源効率性を高めた地域循環共生圏の形成～

コーディネーター：NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットワーク 理事長 渡田 裕子 氏
パネリスト：全国地域輸入団体連絡協議会 会長：富山県輸入会 会長 岩田 繁子 氏
富山県資源利用協会 会長 尾形 洋子 氏
ハリスエレクトロニクス株式会社 代表取締役 渡田 真 氏
環境省 富山県

当日の催し

- 3R推進展示コーナー (10:00~18:00)
- 平成30年度3R促進ポスターコンクール入賞作品
- 富山県
- 富山県中野地方環境事務所
- 3R推進関係団体
- 3R推進推進フォーラム (ペットボトル等資源回収リサイクル推進8団体)
- 3R推進推進フォーラム
- リデュース・リユース・リサイクル推進協議会
- そのほか富山県内の 町・企業団体
- 富山県内の自治体 ほか

関連イベント

- 施設見学(富山市エコタウン) 定員50名 [事前申込制] 先着順
様々な高度分別・処理を行う企業が活動しているエコタウンで廃棄物リサイクル施設を見学します。
※全国大会参加申込者に限ります。詳細は高さをご覧ください。
- とやま環境フェア2018
10月13日(土)、14日(日) 高岡テクノドーム (高岡市二重32-6)
テーマ：未来につなごう！エコくらし (いつでもどこでも3R)

あなたの携帯電話・デジカメなどがメダルに生まれ変わります！
富山県・富山市は、東洋2000種優良産品が産出する「自然の宝庫」に恵まれています。お申し込み後、事務局より受付のご連絡をいたします。

主催 第13回3R推進全国大会実行委員会 (環境省、環境省中野地方環境事務所、富山県、3R活動推進フォーラム)

お問い合わせ先 実行委員会事務局 (3R活動推進フォーラム内) TEL: 03-6908-7311

表面

「第13回3R推進全国大会参加申込書」
平成30年10月12日(金) 13:00~17:00 (受付開始 12:00)

申込締切 10月10日(水) FAX 03-5638-7164 メール info@3r-forum.jp
ホームページ http://3r-forum.jp
お申込受付後、事務局より受付のご連絡をいたします。

申し込み者情報

フリガナ	氏名	団体名・部署
フリガナ	役職名	
フリガナ	又は 所属先住所	
TEL (03)	FAX	E-mail

富山国際会議場への行き方(上) TEL: 富山国際会議場の番号をご記入ください。

富山国際会議場 大手町フォーラム (富山市大手町1番2号)

JR富山駅から

- バス：約5分「福祉公園前」下車 徒歩3分
- 徒歩：福祉大通りを南へ約15分
- 市内電車(セントラム)：約7分「国際会議場前」下車

富山きととき空港から

- タクシー：約20分
- バス(空港連絡バス)：約25分「動物園」下車 徒歩2分

「施設見学会参加申込書」 ※全国大会参加申込者に限ります。

施設見学会の参加を申し込みます。(参加無料)

申込書とさせていただきます。予めご了承ください。
また、当日ご連絡する可能性がありますので、上記TEL・Eメールは携帯電話の番号をご記入ください。

参加申込の方は〇印をご記入ください。

コース 富山市エコタウン ⇨ 富山国際会議場大手町フォーラム

富山市エコタウンは、廃棄物・リサイクルの関連工業団地で、ハイブリッド型プラスチックリサイクル、生ごみ・固定種のリサイクル、自動車リサイクル等様々な高度分別・処理の企業が実現しており見学会を実施します。奮ってご参加ください。

施設見学 定員50名 (事前申込制・先着順) ※お申し込み後、事務局より参加費をお送りします。

集合時間・集合場所

9時00分	JR富山駅前
-------	--------

大会当日の午前中に、施設見学会を実施します。

施設見学会スケジュール

JR富山駅前 (9:00集合・9:10出発) ⇒ 富山市エコタウン (9:30) ⇒ 工場見学 (9:30-11:00)
11:10発⇒富山国際会議場大手町フォーラム (11:35着) ⇒ 大会参加 ※専用バス利用

お問い合わせ先 第13回3R推進全国大会実行委員会事務局 TEL: 03-6908-7311 (3R活動推進フォーラム内)

裏面

(2) 参加者用パンフレット

10月は3R推進月間です。

第13回 3R推進全国大会 in 富山

式典・記念シンポジウム

富山から世界に！ みんなでつなぐ3Rの未来

平成30年 10月12日(金) 13:00~17:00(受付開始12:00)

会場 富山国際会議場 メインホール

主催 環境省 環境省中部地方環境事務所 富山県 3R活動推進フォーラム

富山県からつくる! みんなのメダルプロジェクト
あなたの携帯電話・デジカメなどがメダルに生まれ変わります!
富山県・富山市は、東京2020組織委員会主催の「都市部を中心とするみんなのメダルプロジェクト」に協力しています。会場内に回収ボックスを設置いたしますので、皆様のご協力をお願いします。

1 ページ

プログラム

第I部 記念式典 13:00~13:55

13:00~13:30 **開会挨拶** 講演者 環境省 富山県 3R活動推進フォーラム
来賓祝辞 富山県議会議員 高野 行雄氏

13:30~13:55 **表彰式** ・循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰
・3R促進ポスターコンクール最優秀賞表彰

第II部 記念シンポジウム~富山から世界に! みんなでつなぐ3Rの未来~ 14:20~16:55

14:20~14:50 **基調講演1** 「富山県における3Rの取組み」
講師: 富山県知事 石井 龍一氏

14:50~15:10 **事例発表1** 「中越ハルプ工業株式会社における3Rの取組み」
講師: 中越ハルプ工業株式会社 二階製造部 原貞課長 種 友雄氏

15:10~15:25 **事例発表2** 「考えよう! わたし〜島の3R」
講師: 沖根県環境部環境整備課長 松田 了氏

15:25~15:55 **基調講演2** 「SDGs時代の改正循環計画と3Rの推進」
講師: 慶應義塾大学経済学部教授・3R活動推進フォーラム会長 細田 衛士氏

16:05~16:55 **パネルディスカッション** 「資源効率性を高めた地域循環共生圏の形成」
コーディネーター: NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長・3R活動推進フォーラム副会長 師田 裕子氏

パネリスト
●全国地域連合団体連絡協議会会長・富山県連合会会長 岩田 製子氏
●富山県消費者協会会長 尾畑 納子氏
●ハルパ工業株式会社 代表取締役社長 佐田 真氏
●環境省環境再生・資源循環局総務課環境型社会推進室長 富安 健一郎氏
●富山県生活環境文化部長環境政策課長 矢野 康彦氏

16:55~17:00 **次回開催挨拶** 新潟県環境部廃棄物政策課長 鈴木 稔直氏

2 ページ

平成30年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰

表彰者のご紹介(順不同・敬称略)

3R活動推進功労(団体)

小矢部市立 石動小学校 富山県
平成15年度から事業になった制服及び運動服を回収して児童が再利用する取組を実施。卒業生が進学した中学校への回収ボックス設置や取付バザーの開催など回収方法を工夫。また、地域の協力を得ながらアルミ缶を回収し、地域の福祉施設や盲導犬育成団体に寄付を行うなど地域の循環型社会づくりの中核的な役割を担っている。

耐水市立 放生小学校 富山県
平成20年から地域の清掃活動やアルミ缶の回収活動を実施。その活動を児童が主体となり、お互いの活動の評価することを踏まえて3Rの意識向上につなげている。また、平成18年から、4年生の児童が、地球温暖化や海洋プラスチック等の環境問題について学習し、自分たちができることを考えて「10の取組み」を設定し、その取組を家族と一緒に4段階にわけて実践している。

徳島県立 阿南工業 阿南光高等学校 徳島県
阿南市では放棄竹材が問題となっているが、平成27年に地元のNPOと連携して未利用の竹材を利用した防災備中電灯「ぼてっとライト」を製作。これはセンサーで点灯するもので、夜間の大地震による停電を想定したもの。地元中学校では「ぼてっとライト」の組み立てキットを授業材料としているほか、地震で被害を受けた1号機の全世帯に無料配布する等、地域課題の解決に取り組んでいる。

3R活動優良企業

中越ハルプ工業株式会社 富山県
平成20年から地域の団体や企業・行政と連携して使用済み折り紙や年賀はがきを回収し、自社でコピー用紙や機軸紙を製造し、地元の小中学校に寄付する活動を行っている。さらに平成25年から、墨を対象とした資源回収を実施。また生産工程では廃棄物材料を積極的に使用し化学原料の削減に取り組んでいる。

佐川急便株式会社 札幌北営業所 北海道
これまで標準対応型梱包容器である折りたたみコンテナは企業向け企業物のみに使用されていた。平成18年にこのコンテナを廃棄の入り道となる手荷物輸送サービスに活用する「ホスビタム」を開発(営業所)から発売して始めた。この結果、段ボールの使用を年間1200枚削減できた。

3 ページ

3R促進ポスターコンクール最優秀賞表彰

平成30年度 3R促進ポスターコンクール入賞作品(敬称略)

小学生低学年の部

ほくもてきりサイクル
愛知県安城市立文山小学校 1年生 栗津 陸

小学生中学年の部

毎日の毎日3R
愛知県安城市立製の星小学校 3年生 増田 虎浩

小学生高学年の部

3R
茨城県取手市立六町小学校 5年生 斎藤 知奈

中学生の部

未来のために
富山県南砺市立城道中学校 3年生 松島 裕希

当日の催し

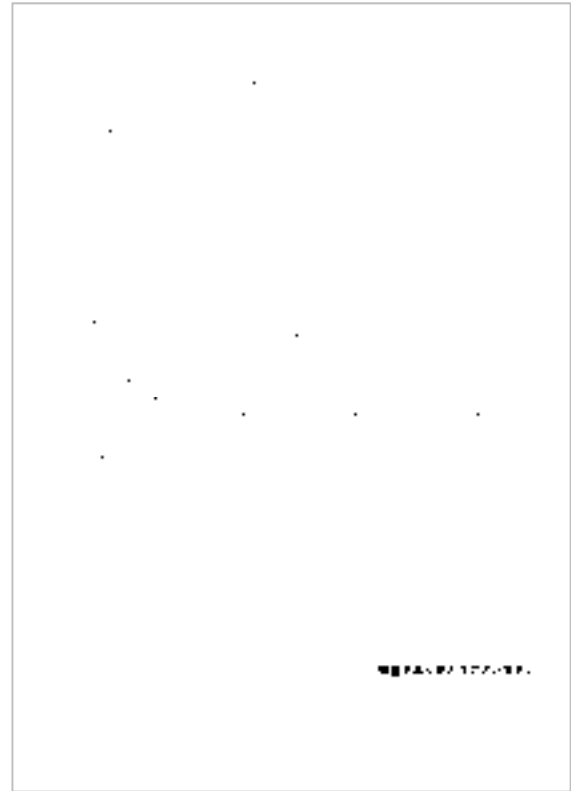
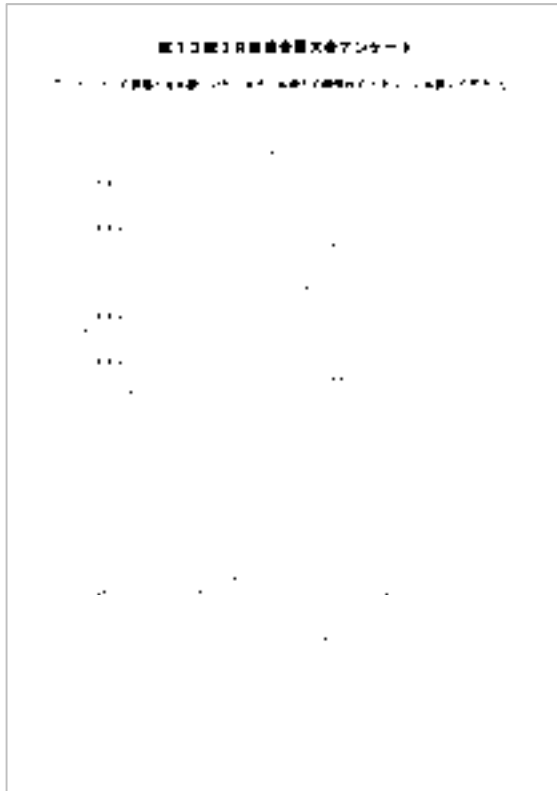
3R推進展示コーナー (10:00~18:00)

- 平成30年度3R促進ポスターコンクール入賞作品
- 富山県
- 環境省・環境省中部地方環境事務所
- 3R推進団体連絡会(ペットボトル等容器包装リサイクル法関連8団体)
- 3R活動推進フォーラム
- リデュース・リユース・リサイクル推進協議会
- その他富山県内のNPO・企業団体
- 富山県内の自治体 ほか

4 ページ

(3) 来場者アンケート

①アンケート票



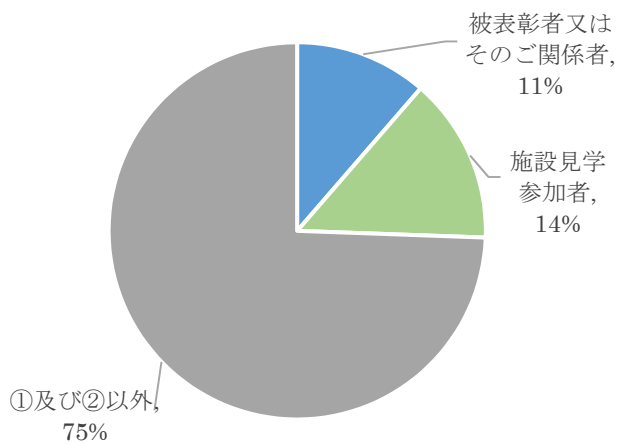
②アンケート集計結果

回答数は199名でした。

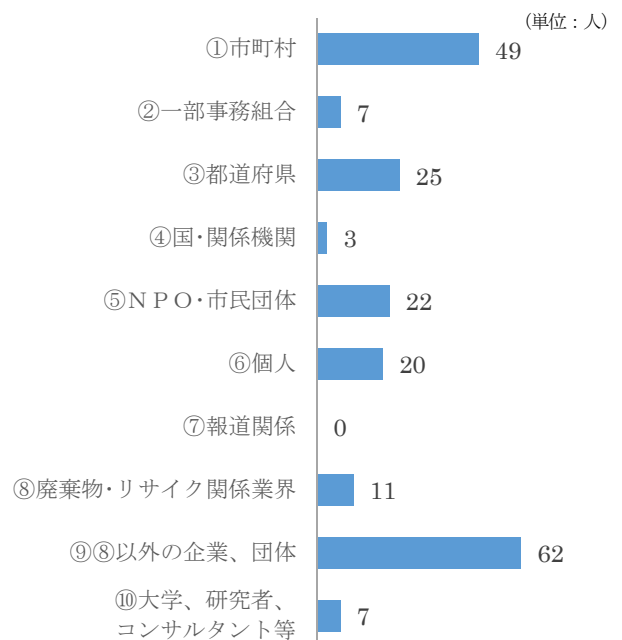
【参加者の属性】

10 あなた自身について御尋ねします。

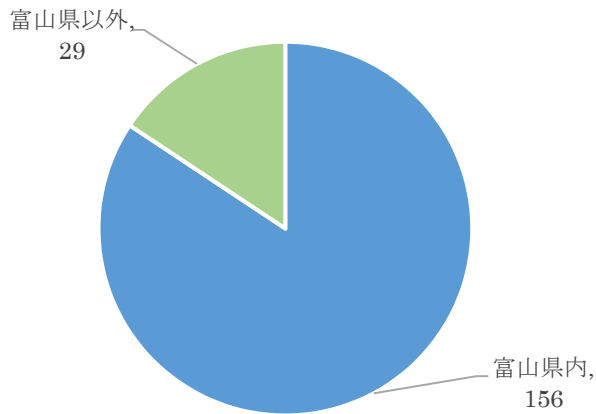
(1) 御参加のお立場



(2) 御所属 (複数回答可)



(3) 本日はどちらから御参加いただきましたか？



①富山県内

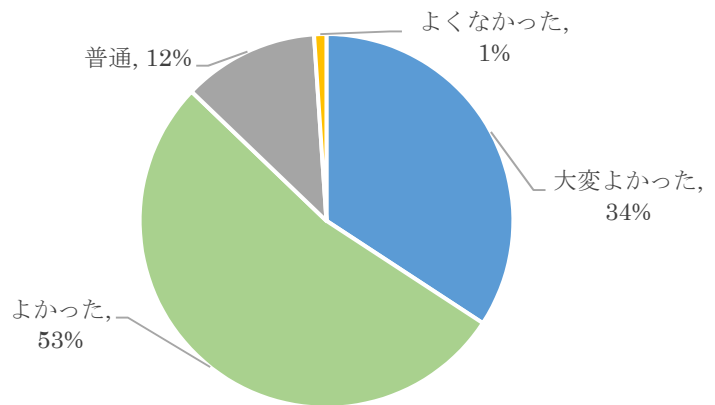
②富山県以外（都道府県）

<②と回答された方>

- ・山形県
- ・茨城県
- ・千葉県
- ・神奈川県
- ・長野県
- ・愛知県
- ・兵庫県
- ・愛媛県
- ・沖縄県
- ・福島県
- ・群馬県
- ・東京都
- ・石川県
- ・岐阜県
- ・大阪府
- ・岡山県
- ・宮崎県

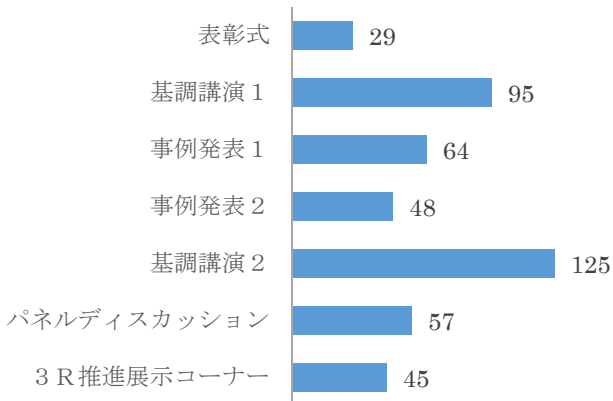
1 大会全体についてどのように感じましたか。

- ①大変よかった
- ②よかった
- ③普通
- ④よくなかった



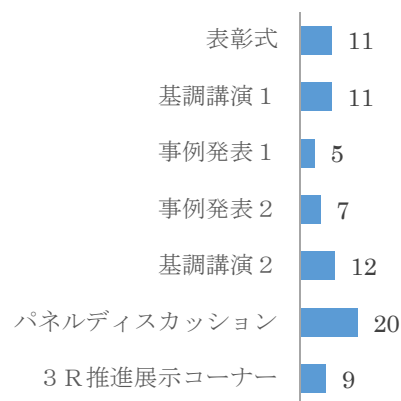
2 特に良かったプログラムは何ですか？
(複数回答可)

(単位：人)



3 良いと思わなかったプログラムは何ですか？
(複数回答可)

(単位：人)



4 上記で回答いただいたものについて、具体的にどのようなところが良くなかったのか。また、どのように改善すればよいものになると思うか、お書きください。

<記念式典>

- ・表彰式で、ポスターコンクールの受賞について、受賞理由や、作成の意図が見えてこなかった。パンフレットで記述するだけでもいいと思うので、分かるとありがたい。

<基調講演 1>

- ・森林環境税の創設すばらしい。レジ袋の無料配布の廃止。
- ・数字を入れて、効果、参加意識等が判り良かった。

<事例発表 1>

- ・中越パルプ工業の方がハガキ回収しリサイクルしていると話されたが、個人の住所等載っているの、少し抵抗がありません。

<事例発表 2>

- ・沖縄の子ども達の買い物ゲームでごみの減量化を考えさせるのは、自然でとても良いと思った。（金の使い方、買い方）

<基調講演 2>

- ・難しくとらえられがちなSDGsについて、3Rとからめてとてもわかりやすく解説いただいたと思います。またお話のされ方も、とても元気とやる気をいただけるものでした。機会があればまた別の機会にもご講演をお聞きしたいと思いました。

<パネルディスカッション>

- ・パネリストの話に時間をとってほしい。

<講演全般>

- ・3R推進の先進的な実践にどんどんつながってゆく行動の発表を望んでいた。
- ・基調講演、事例発表計4題は多いのでは？

<3R推進展示コーナー>

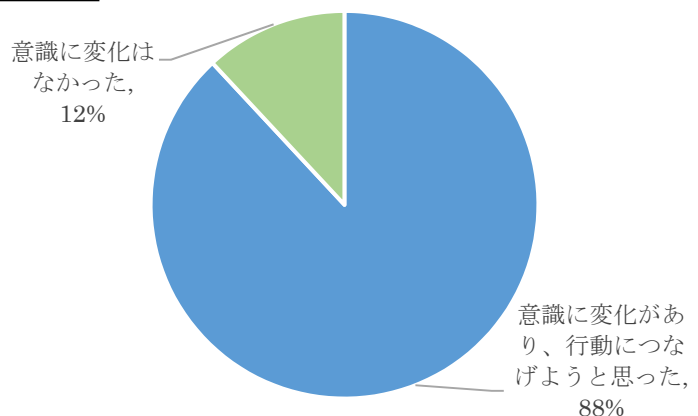
- ・ポスター展示（パネル原画）について、県、全国、そして世界からの作品をみて、環境問題を地球規模で取り組んでいることを認識した。

<その他>

- ・参加者の内訳。もっと一般の方々に参加してもらえたらいい（主婦層が少ない）結果的には、一人ひとりが（意識）、“もったいない精神”をもつこと。
- ・他県の3R推進（全国大会なので）の資料を、沢山置いて欲しいです。
- ・時間配分が良くなかった。

5 大会に参加して、3Rに対する意識に変化はありましたか。

- ①意識に変化があり、行動につなげようと思った
- ②意識に変化はなかった



6 上記で①と回答された方は、具体的にどのように変化があったかお書きください。また、②と回答された方は、どう改善すれば、3R行動につながると思うか、お書きください。

<①と回答された方>

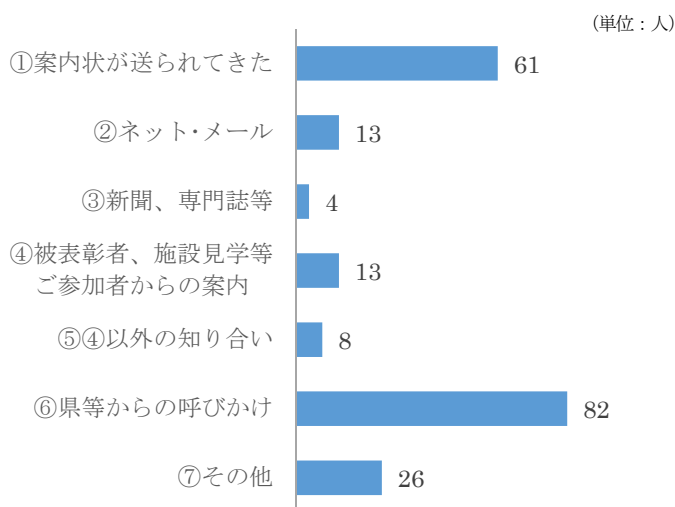
- ・生ごみの肥料化、箸の紙へのリサイクル、古着のリフォーム、太陽光発電、ごみの減量、もっともっと健康でがんばろうと思った。
- ・フードロス、プラスチックごみ問題をしっかり意識を強く持って個々に取り組みながら少しずつでも広げて行けたらと思いました。子ども達に伝え続けることが大きなうねりに繋がるので、教育の一環として常に伝え続けていけたらと思った。

- ・3Rに取り組みねばならない理由が明らかになり、目的意識づけができた。
- ・全国的にこんな、一生懸命して居られるとは、自分は、思わなかった。
- ・携帯電話をリサイクルにしようと思った。
- ・全国規模でなかなか進まない課題について富山県がいくつかの成功事例を示している点に注目していきたい。立場の違う人たちの協力体制について参考としたい。
- ・レジ袋にしても、頑張って活動された方々がおられ、普及した事を知り、意識が変わりました。
- ・講演頂いた各会社、県の取組にヒントがあったのと、当社にて活用できるのではと今後考えて対応しようと思った。
- ・意識の高い企業・団体などは常に主体的にアクションを起こし実践を続けておられる。社会全体に貢献しつつ、コスト意識も高いから経営的にも成り立っているところが評価できる。これからの環境施策に生かしていきたいと思う。子ども達への啓発活動が想像以上に効果を発揮することを知った。沖縄の取り組みをみると自分たちの遅れを感じさせられた。
- ・地元の通学区域での啓発に更に取り組んでいきたい。
- ・今までも自治会でリサイクル活動を行っている。しかし、LGBTIQへの偏見がどこかに残っていたが、近頃マスコミでも多く問題や話題になり、誰一人残さないことの大切さを考えさせられた。3Rの問題が、人間関係にまで広げなければならぬことに驚き、深く考えさせられた。
- ・身近なところから心掛けていきたい。古着のリサイクル、レジ袋の減量。もっと環境にやさしくなるよう、主婦として勉強していきたい。
- ・小型家電リサイクルについて知識を得ることができた。
- ・いくつかのプログラムの中で、3Rの効果を数字で示されたことで、「行動しなければ」と強く感じました。

〈②と回答された方〉

- ・出席している方は充分に意識が高いと思う。そうでない方々にいかに広げていくかが、重要。
- ・日頃から3Rを意識しているので、②ですが、関心、興味がなくての②ではない。
- ・現状意識している。

7 3R推進全国大会については何でお知りになりましたか？
(複数回答可)



〈②と回答された方〉

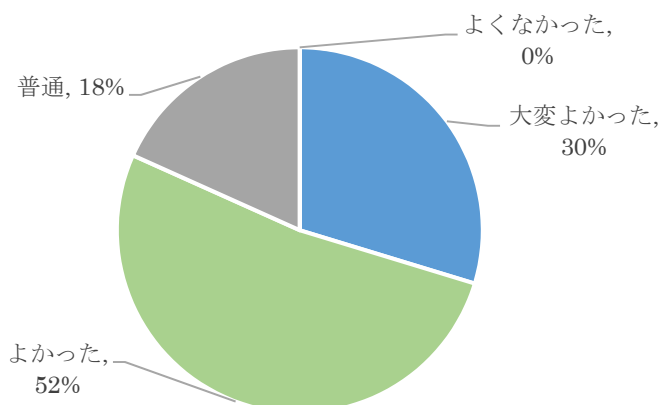
- ・環境省のHP
- ・3R活動推進フォーラムのHP
- ・富山環境財団
- ・Facebook

〈⑦と回答された方〉

- ・県婦人会
- ・消費者協会
- ・職場から
- ・女性団体から依頼
- ・知人から
- ・市役所から
- ・市の環境衛生協議会
- ・自治会役員
- ・所属団体

8 大会の運営方法、スタッフの対応はいかがでしたか？

- ①大変よかった
- ②よかった
- ③普通
- ④よくなかった



9 大会のプログラムや進め方等についてご意見があればお書きください。

- ・全国大会は判かりますが、時間の配分を考えてほしい。
- ・参加者を観察すると年配の方が多く、現役世代が少ないと感じた。やはり時間が長いからか？全国大会なので、いろいろな取組み等紹介したいのはわかりますが、もう少し短くと現役世代の参加が多くなるのでは？
- ・時間の配分（終了をもう少し早く）。
- ・パネルディスカッション、時間が少ない。
- ・さすが全国大会。講師の方々も充実。いろんな方に伝えたい。広めたい！
- ・各種発表はどれも一生懸命で非常に良かった。しかし、質問をもうけてはどうでしょうか。
- ・非常に難しいが、最後まで帰らないプログラムのつくり方（私自身は良いと思ってましたが…）。
- ・一般の方が参加しやすい（土）～（日）の開催はできないのでしょうか？
- ・3Rは食育と同じで、子どもの時からの教育が大切。
- ・3Rの大会にアンケート用紙と共に使い捨ての筆記具をつけるのはいかがなものか。
- ・多くのプログラム・テーマをつめ込み過ぎの様に感じます。
- ・開催地区のリサイクルの現場視察は開催県は大変ですが今後もぜひ続けてほしい（参加すると大きな気づきがあります）
- ・パネルディスカッションの内容は、連携が大切であるというテーマがプログラムを通して考えられる進め方が良かった。

11 その他、御意見があれば御自由にお書き下さい。

- ・こういう風に「関係者」を集めて、意識を高めるのもいいが、「それ以外の人」に広まらなければ、それほど意味はない。なんでもそうだが、「一般の人々」に周知徹底されてこそ、意義がある。
- ・子どもたちに3Rについて話し、体験させていると、大人も変わっていく。その考えに共感しました。
- ・他の団体・自治体などの活動を知ることができる良い機会だった。
- ・ポスターが非常にうまく書いてあった。
- ・手話通訳の人がおられず残念に思いました！！知事さんのお話は、わかりやすく大変勉強になりました。発表される人の声が小さい人があり残念！！マイクの位置をしっかりと確認されたらどうでしょうか？細田衛士先生の「今日の一番伝えたい事はここです。」（17のキーワード等）と話されてからスタートで、よく分かり勉強になりました。
- ・一般（国民・県民・市民）の人々に3Rの意味、何故行うのか？将来への危惧（不安）等を知ってもらふ事、国を挙げて取り組む必要がある。義務教育期間中に知識として、また知恵として実践を通して学んでもらう施策が必要と思う。また、各自が自ら行動する。あるいは行動できる勇気を養う事が大切と思います。3R→5Rへ。
- ・将来の「持続可能な社会」づくりのためには今回のようなイベントに、中学、高校、大学の中で意識高く考えたり取り組んだりしている生徒や学生に多く参加していただければ、社会は大きく変えていけると思います。
- ・アンケートについていた、クリップ付えんぴつは、必要なのでしょうか？ほとんどの方が何かしらの筆記具を持ってきておられていると思う。持ってこない方だけに、えんぴつ貸出をすればよいのでは。パネルディスカッションのペットボトルと紙コップについては準備が大変ですが、ガラスコップでの水だけでもよかったのでは。社会全体を動かしていくために行っている3R推進全国大会ではないのでしょうか？上記2点、細かいことかもしれませんが、とても大事なことと思います。
- ・3Rは国民が対象であり、知ってもらって理解してもらって実践してもらおう。その為にその県で行われる企業、住民を含む産・官・民・企・住民が（皆で集容するくらいになれば！）来る様な場に、集客、PRすべきと思う。もっと巨大化していくべき（テーマが素晴らしいので）と思った。経団連（生産側）、廃棄物業界、各県、各市町村の廃棄物指導課など皆にきいて欲しいし、来て学んで欲しい！
- ・買い物ゲームは子どもに伝える時にあそび感覚もあり取り組みやすいと思った。取り組んだ子供たちの素直な感想がすぐで、又、私たちが見過ごしている事を反省させられた。
- ・細田教授の話をきいていて「イタイタイ病」は過去の問題ではなく海を汚す事によって今後も十分おこりうる事がわかり、恐怖を感じました。
- ・基調講演、事例発表などのパワーポイントの資料があり、小さくて見えない文字も見やすかった！
- ・環境先進県富山として、素晴らしい会議でした。
- ・駐車場がある場所お願いします。
- ・展示ブースもよかったです。もっとゆっくり見たかったです。子ども達のポスターに書かれているキャッチコピーもしっかり考えたものであり、感心しました。
- ・石井知事自らプレゼンされたのには驚きました。
- ・社会・地域を変えるために国民性、県民性を利用するという視点は大切だと感じました。今後また、富山から日本を変える、世界を変えるシステムが出ることを期待したい。
- ・レジ袋有料化の推進が徹底出来ていない我が県に於て、今後強力に推進するのを感じました。それには婦人がかかわる事が大事であると理解しました。

(4) 報道掲載記事

第13回3R推進全国大会開催へ



昨年の大会は沖縄県宜野湾市で行われた

10月12日に富山県で

富山県では、3R推進全国大会が10月12日、富山県国際会議場（富山市）で開催される。今年大会は、2010年大会（富山県）以来、初めて富山県で開催される。大会は、3R推進全国大会実行委員会（実行委）が主催し、富山県、富山県環境政策推進センター、富山県環境政策推進センターが協賛する。大会は、3R推進全国大会実行委員会（実行委）が主催し、富山県、富山県環境政策推進センター、富山県環境政策推進センターが協賛する。大会は、3R推進全国大会実行委員会（実行委）が主催し、富山県、富山県環境政策推進センター、富山県環境政策推進センターが協賛する。

3R推進全国大会の開催地

富山県では、3R推進全国大会が10月12日、富山県国際会議場（富山市）で開催される。今年大会は、2010年大会（富山県）以来、初めて富山県で開催される。大会は、3R推進全国大会実行委員会（実行委）が主催し、富山県、富山県環境政策推進センター、富山県環境政策推進センターが協賛する。大会は、3R推進全国大会実行委員会（実行委）が主催し、富山県、富山県環境政策推進センター、富山県環境政策推進センターが協賛する。

ウエイスト マネジメント
10月5日

北日本新聞
10月13日

ごみ削減で施策を共有

富山で3R推進全国大会

環境省主催の3R推進全国大会は12日、富山市の富山県国際会議場で開催され、県内外の環境関係者、企業、行政関係者約600人が食品ロス対策や海洋プラスチックの削減などに向けた施策共有を行った。石井知事は食品ロスを減らすため、食品ロス削減・販路開拓に関する「1ルール」を富山県で率先して実施するよう呼びかけた。

食品ロス知事「2分の1ルール」を

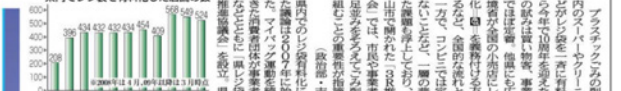


3R推進全国大会 富山市の富山県国際会議場

富山県知事石井啓一は、食品ロス削減の重要性を訴え、県民に「2分の1ルール」を呼びかけた。これは、食品ロスを削減するために、食品ロスを2分の1に削減することを目指すという。石井知事は、食品ロスを削減するために、食品ロスを2分の1に削減することを目指すという。石井知事は、食品ロスを削減するために、食品ロスを2分の1に削減することを目指すという。

富山新聞
10月13日

富山県が3R推進への取組を共有する。富山県国際会議場で行われた3R推進全国大会で、石井知事は、食品ロス削減の重要性を訴え、県民に「2分の1ルール」を呼びかけた。これは、食品ロスを削減するために、食品ロスを2分の1に削減することを目指すという。石井知事は、食品ロスを削減するために、食品ロスを2分の1に削減することを目指すという。



県内定着 全国に波及

レジ袋有料化10年

富山県でレジ袋有料化が10年を迎える。この間に、県内ではレジ袋有料化の店舗数が434店舗に増加した。また、この取り組みが全国に波及し、多くの自治体で導入されている。富山県は、レジ袋有料化の先進地として知られており、この取り組みが全国的に広がっている。

富山で3R推進全国大会

富山県では、3R推進全国大会が10月12日、富山県国際会議場（富山市）で開催される。今年大会は、2010年大会（富山県）以来、初めて富山県で開催される。大会は、3R推進全国大会実行委員会（実行委）が主催し、富山県、富山県環境政策推進センター、富山県環境政策推進センターが協賛する。大会は、3R推進全国大会実行委員会（実行委）が主催し、富山県、富山県環境政策推進センター、富山県環境政策推進センターが協賛する。

ごみ削減の事例学ぶ

富山県では、3R推進全国大会が10月12日、富山県国際会議場（富山市）で開催される。今年大会は、2010年大会（富山県）以来、初めて富山県で開催される。大会は、3R推進全国大会実行委員会（実行委）が主催し、富山県、富山県環境政策推進センター、富山県環境政策推進センターが協賛する。大会は、3R推進全国大会実行委員会（実行委）が主催し、富山県、富山県環境政策推進センター、富山県環境政策推進センターが協賛する。

「富山から世界に！みんなでつなぐ3Rの未来」

第13回3R推進全国大会 12日に富山県で開催

富山県では、環境省主催の「第13回3R推進全国大会」が、12日（土）に富山県富山市の富山国際会議場で開催される。富山県では、この大会を通じて、全国的に3Rの推進を促進し、持続可能な社会の実現を目指す。富山県は、この大会の開催地として、積極的に3Rの推進に取り組んでいる。富山県では、この大会を通じて、全国的に3Rの推進を促進し、持続可能な社会の実現を目指す。富山県は、この大会の開催地として、積極的に3Rの推進に取り組んでいる。

富山県では、この大会を通じて、全国的に3Rの推進を促進し、持続可能な社会の実現を目指す。富山県は、この大会の開催地として、積極的に3Rの推進に取り組んでいる。富山県では、この大会を通じて、全国的に3Rの推進を促進し、持続可能な社会の実現を目指す。富山県は、この大会の開催地として、積極的に3Rの推進に取り組んでいる。



循環型社会推進功労者環境大臣表彰 中越パルプなど10企業・団体が受賞

環境省は、循環型社会の推進に貢献した功労者を表彰する。今年度は、中越パルプ工業株式会社、株式会社ニッポン、株式会社トヨタ自動車、株式会社日立製作所、株式会社パナソニック、株式会社三菱電機、株式会社富士通、株式会社日立ハイテク、株式会社日立システムズ、株式会社日立製作所が受賞した。これらの企業・団体は、資源の有効利用、廃棄物の削減、環境保護に積極的に取り組んでいる。環境省は、これらの企業・団体の功績を称え、全国的に3Rの推進を促進することを期待している。



前回の全国大会では、「循環型社会に向けた取り組みと働き場のリサイクル」をテーマにしたシンポジウムが開催された（提供：3R推進連絡フォーラム）



伊藤環境大臣（臨時、写真中央）らが3R推進展示コーナーを視察



未来のために

富山県では、この大会を通じて、全国的に3Rの推進を促進し、持続可能な社会の実現を目指す。富山県は、この大会の開催地として、積極的に3Rの推進に取り組んでいる。富山県では、この大会を通じて、全国的に3Rの推進を促進し、持続可能な社会の実現を目指す。富山県は、この大会の開催地として、積極的に3Rの推進に取り組んでいる。

環境新聞 10月10日

第13回3R推進全国大会開く

12日に富山県富山市で



大会は富山国際会議場で行われた

富山県では、この大会を通じて、全国的に3Rの推進を促進し、持続可能な社会の実現を目指す。富山県は、この大会の開催地として、積極的に3Rの推進に取り組んでいる。富山県では、この大会を通じて、全国的に3Rの推進を促進し、持続可能な社会の実現を目指す。富山県は、この大会の開催地として、積極的に3Rの推進に取り組んでいる。

ウエスト マネジメント 10月15日

※カラー版は、3 R活動推進フォーラムのホームページからダウンロード可能です。
<http://3r-forum.jp/activity/meeting/index.html>

第13回3 R推進全国大会

開催報告書

平成31年3月

第13回3 R推進全国大会実行委員会
実行委員会事務局：3 R活動推進フォーラム
東京都墨田区両国3-25-5 JEI 両国ビル8F
公益財団法人廃棄物・3 R研究財団内
TEL:03-6908-7311 FAX:03-5638-7164
Mail:info@3r-forum.jp



古紙パルプ配合率80%再生紙を使用

リサイクル適性の表示：紙へリサイクル可
本冊子は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料〔Aランク〕のみを用いて作製しています。

この製品は、古紙パルプ配合率 80%の再生紙を使用しています。このマークは、3R活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています